

**グランプリ**

**豊永 真実**

(広島市立大学 デザイン工芸学科 3年)



「平和なんて、そばにあるよ」

たくさんのお食べ物から、少し離れてぼつんといる黒いもの。これは被爆してしまっただけです。原爆が投下された日、お弁当も一瞬で真っ黒になってしまったそうです。現在では当たり前のように、色々な食べ物をたくさん食べることが出来ます。それは昔では考えられなかったことです。しかし、当たり前すぎて私たちはそれが平和だとあまり考えません。平和が日常化している今、すぐそばにある平和について、改めて考えてほしいです。

**JAGDA 広島賞**

**大島 尚子**

(穴吹デザイン専門学校  
グラフィックデザイン学科 2年)

「電報」



もし、広島に原爆が投下されるという事が分かっていたら、私はどうするだろうという考えのもとに制作しました。当時の連絡手段である電報をモチーフに使い、広島が危険、逃げてほしいという思いを込めました。電報の日付や文面もできるだけの当時の物に近くなるようにダメージをくわえたりして制作しました。シワや破れは、その願いが叶わなかった事を表しています。

**'H'ADC 賞**

**平川 かな江**

(広島市立大学 デザイン工芸学科 2年)

「東京 ダモイ」



九州からやってきて2年ほど生活してきたが、広島への平和に対する意識の強さには驚きを隠せなかった。しかし裏を返せば広島はこれだけ強い想いを持っているのにも関わらず、他の地域ではとくになにもなく、限りなく無に近いということだった。それでいいのだろうか、そう考え、今回のポスターはこの改善策となるものにした。広島と同じくらい他の地域にも平和や歴史に対して考えを深めてもらえる一歩になるようなメッセージを込めて。

**準グランプリ**

**宮田 咲**

(広島コンピュータ専門学校  
ビジュアルデザイン科 2年)



「Flood of tears」

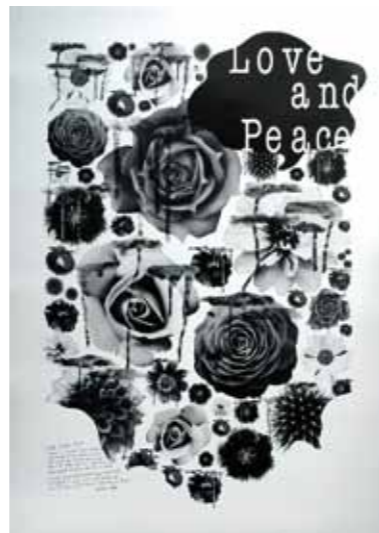
私の作品のテーマは、「涙の雨」です。私の祖父は、広島で原爆を体験し、その話を実際に聞いて、今回この作品を制作しました。まだ幼かった祖父が、唯一鮮明に覚えていたのが、一人の女性の姿でした。その女性は、黒い雨を受けながら一人たたずんでいたそうです。私はその話を聞いて、その雨がまるで悲しみや辛さや言葉にならない想いが涙として降っているように感じ、今回の作品として表現しました。

**特別賞**

**篠原 唯紀**

(広島市立大学 デザイン工芸学科 4年)

「FLOWER」



まだ生気が感じられるモノクロの花たちは、原爆によって、希望があった人やまだ生きられた人が突然命を奪われた事を表現しています。「FLOWER(花)」というのはいさしは平和の象徴として用いられますが、世界は今平和になっているとは言えません。「本当にこの言葉に、この花達に意味はあるのか？」というアンチテーゼを込めて、あえて使い古された「LOVE and PEACE」というコピーを選びました。



入選 (入賞候補)

**中藤 由貴**

(比治山大学短期大学部  
専攻科美術専攻)

「PEACEFUL TIME」



入選 (入賞候補)

**横田 彩**

(広島コンピュータ専門学校  
ビジュアルデザイン科 2年)

「I definitely won't forget that day.」



入選 (入賞候補)

**西 瑛里菜**

(比治山大学短期大学部  
美術科 2年)

「Seize The Day」



入選

**八幡 茜**

(広島コンピュータ専門学校  
ビジュアルデザイン科 2年)

「心に鶴を」



入選

**今井 恵里奈**

(比治山大学短期大学部  
美術科 2年)

「Hearts make peace.」



入選

**長谷川 文香**

(比治山大学短期大学部  
美術科 2年)

「ワタシノカゾク」



入選

**東久保 こと那**

(比治山大学短期大学部  
美術科 2年)

「平和と歴史と戦争」



入選

**溝手 未来**

(広島コンピュータ専門学校  
ビジュアルデザイン科 2年)

「マザーチャップリン」



入選

**山田 涼香**

(広島市立大学  
デザイン工芸学科 3年)

「Think another one.」



入選

**伊藤 優**

(比治山大学短期大学部  
美術科 2年)

「earth bomb」